

平成28年度 県事研ビジョン「広島風おこのみプラン」進捗状況報告

会員（個人）による回答のまとめ【アンケート回収数：332枚】

評価欄:【している】【していない】、評価の期間:平成27年8月～平成28年7月

☆「研修」－安定した事務機能の構築・資質向上

- 【実効策】 ①研修の機会等を積極的に活用し、新たに必要とされる知識や技能の習得に取り組みます。
 ②学校事務に関して必要な知識・技能を有し、事務処理等に活かします。
 ③自らの実践や研修成果を積極的に示し、改善に活かします。

3つのワーク	具体的取組	具体的取組(詳細)	平成28年度 評価(%)			平成29年度 評価(%)			平成30年度 評価(%)			平成31年度 評価(%)		
			している	していない	未回答									
チームワーク	学校経営スタッフとしての役割を果たす能力を身に付けるための研修に参加	自己のキャリアの向上を常に考え、研修計画を立て研修(教育センター研修等)に参加する。 【参考:学校事務職員キャリア形成のための研修計画】	58.5①	35.5	6.0									
		事務研究大会(広島県公立小中学校事務研究大会等)に参加する。	92.8	1.5	5.7									
ネットワーク	市町事務研への参加	実務研修やビジョンに沿った研究を行う。	84.0	9.7	6.3									
フットワーク	共同事務組織等でのOJTによる研修の推進	日常の実践例を共有することにより経験値を高める。	79.5②	14.5	6.0									

【分析・考察】

①『自己のキャリアの向上を常に考え、研修計画を立て研修に参加する』は「している」と回答した人が全体で58.5%で、昨年度に比べ4.4%の上昇となっている。これを経験年数別にみると、5年未満、21年～30年未満、30年以上では約6割の人が「している」と回答したが、6年～10年未満と10年～20年未満では約3割の人が「している」との回答に留まっている。経験年数による差が顕著に表れる結果となっている。
 「第2期県事研ビジョン『広島風おこのみプラン』」のキャリア形成のための研修計画や行動指標を活用・意識して行動できるような、研究と周知・理解に向けての取り組みが必要であると思われる。

②『日常の実践例を共有することにより経験値を高める』は「している」と回答した人が、全体で79.5%だった。これを経験年数別にみると、5年未満、21年～30年未満、30年以上では約7割以上の人が「している」と回答したが、6年～10年未満と10年～20年未満では約3割の人が「している」との回答に留まっている。市町事務研や共同事務室等での研修や実践例の共有化を必然としている会員の意識が表れている。

☆経験年数別での割合を見てみると、6年～10年未満と10年～20年未満の人数が全体の1割しかなく、また「している」と回答している割合も少ない。人数が少ない世代での不安や悩み、また年代的にみて、ワーク・ライフ・バランスとの兼ね合いがあり、研修への意識が消極的になっている可能性があると考えられる。

☆平成25年度から毎年、未記入(未回答)の割合が増えている。アンケート回答の際、回答時間の確保や補足説明を加えるなどの工夫も必要かと思われる。

☆「職務内容」－関係機関との連携・学校事務の改善と標準化

- 【実効策】 ①学校教育目標の達成に向け、担当する校務分掌等について、改善する意識をもって参画します。
 ②新しい発想や方法を積極的に取り入れ、創意工夫しながら事務の改善等に取り組みます。
 ③児童生徒理解のための情報収集を積極的におこなうとともに、職務に活かします。

3つのワーク	具体的取組	具体的取組(詳細)	平成28年度 評価(%)			平成29年度 評価(%)			平成30年度 評価(%)			平成31年度 評価(%)		
			している	していない	未回答									
チームワーク	学校間連携	共同事務組織等(※)により、保幼小中高大連携にかかわる業務に必要な情報交換をし、連携を図る。 ※事務連絡会や事務研等の共同事務室以外の組織・会も含む。	77.1①	17.2	5.7									
ネットワーク	事務改善への実践	全国・県内各校の情報を得ながら、事務改善について事務職員間で連携を図る。	63.9②	30.1	6.0									
フットワーク	学校経営参画への取組	経験年数を活かし、学校経営参画に取り組む。	59.7③	34.0	6.3									

【分析・考察】

- ① 共同事務組織等により保幼小中高大の連携を図る問いは、「している」が27年度69.8%から28年度77.1%と高くなり、連携が進んだ様子がわかる。昨年度の小中連携を図る問いから、保幼小中高大と幅広い連携を問いにしたため、「している」の回答が、幾分か高くなった。
- ② 事務改善への実践を、(全国・県内の情報を得て)事務職員間での連携を図ったと回答している人が、27年度38%から28年度64%にあがっている。国や県の大きな流れを確認し、創意工夫しながら、業務改善を進めている事務職員が増えてきていると考えられる。県事研HPの研究部コーナー「学校経営スタッフとしての役割」への掲載も4年目となるが、当初に比べ県事研HPを意識してくれる会員が増え、改善につながった一因ではないかと思われる。
- ③ 学校経営参画への取組は「している」と回答している人が過半数は超えているが、毎年横ばいである。経験年数が少ない会員にみられる傾向として、「している」と回答した人が少ないので、引き続き経験年数に応じた学校経営参画への取組の研修や周知が必要である。

☆学校経営に参画するという意味を、企画委員会へ参加するということだけでなく、広い意味であらゆる業務において学校事務職員が学校経営の一部を担っているという意識を高める必要があると思われる。また、事務職員だけではなく、他職種の人たちとも理解しあえるような、方策を考える必要がある。

☆「情報収集と発信」－各方面とをつなぐ役割を果たし信頼を得る

【実効策】 ①他の教職員と積極的にコミュニケーションを図るとともに、相談に応じます。

②地域住民や保護者・児童生徒等の学校に対する要望等を把握し、教育活動の充実に向けた条件整備に取り組みます。

3つのワーク	具体的取組	具体的取組(詳細)	平成28年度 評価(%)			平成29年度 評価(%)			平成30年度 評価(%)			平成31年度 評価(%)		
			している	していない	未回答									
チームワーク	情報提供・収集・意見交換	教育活動の企画段階で情報提供することにより、学校経営にかかわる。	58.2①	35.2	6.6									
	個人情報保護につとめる	情報管理の質の向上につとめる。	82.9①	10.5	6.6									
ネットワーク	職員からの要望・意見を把握	職員からの要求・意見を予算要求・執行計画等に反映させる。	86.8	6.6	6.6									
	地域との連携	地域の人材や情報の提供者と学校との連携に関わり、教育活動が円滑に行えるように支援する。	50.3	42.8②	6.9									
	情報公開	HPやメールシステム・学校だより等を利用し、遅滞なく発信するための支援をする。	35.6	57.5②	6.9									
フットワーク	学校内外の情報や条例規程の改正等の収集と理解	(職員会議や事務だより・回覧等で) 予算執行状況や条例等の改正について職員へ周知徹底する。	79.2	14.2	6.6									
	地教委と連携を取り、教育条件整備につながる予算要求をする。または執行計画を立てる	予算要求等に有効な根拠データを収集し、適正な予算要求をする、または執行計画を立てる。	80.1	13.6	6.3									

【分析・考察】

①「情報提供・収集・意見交換」は、「している」と回答している会員が半数以上いる。

また、「個人情報保護につとめる」も、8割強の会員が「している」と回答している。

「個人情報保護」は時代のニーズに求められており、事務職員の個人情報の取扱いに対する意識の高さが伺える。

②「地域との連携」及び「情報公開」は、「していない」と思っている会員が半数程度で多い。

これは、事務職員以外の教職員がHP・学校だより等の窓口を担当しているからだと思われる。電話対応・来校者対応も、「地域連携」につながっていることへの補足説明が必要であった。

☆全体として、校内に周知することは、「している」と回答した会員が多い。校外に発信するものについては、「していない」と回答している会員が多いように思われる。

事務職員もHP・学校だよりにより何らかの形で係っていると思うが、分掌上、直接発信していないので、「していない」という回答をしている可能性も考えられる。

☆具体的な事例を収集・整理し、共有することでさらに発展につなげていくことが必要である。